

2023.1.1

NPOフォーラム だより No.103



NPO法人安房文化遺産フォーラム（共同代表：愛沢伸雄、池田恵美子）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX：0470-22-8271

Eメール awabunka@awa.or.jp 公式サイト <https://awa-ecom.jp/bunka-isan/>

会員・寄付募集中！ 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円
（ゆうちょ銀行口座：00260-1-97307 名義 NPO法人安房文化遺産フォーラム）

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様のご健康と社会の安寧を祈念いたします。

（館山から見る富士山）

◆ 戦跡ガイド講座 <NPO 会員限定>

⇒ 準備の都合上なるべく予約をお願いします。

▶ 世界史から見る館山の役割 ～赤山地下壕から考える～

講師：愛沢伸雄さん

1月8日（日）13:30～15:30 豊津ホール学習室

参加費：会員無料

◆ 赤山地下壕ガイドサービス

1月8日（日）9:30～12:00

入壕料は各自負担、ガイド料無料

「戦争」の20世紀を繰り返さない願った21世紀も、残念ながら四半世紀が経っても「戦争」はなくなりません。「やられる前にやってしまう」という戦争の論理（「敵基地攻撃能力」戦略など）に陥ってしまうからではないでしょうか。ハワイ真珠湾奇襲攻撃など最たるものですが、太平洋に開かれた房総半島先端において日本の対米戦争のスタートが切られたといっても過言ではありません。

私は、世界史的にはワシントン軍縮体制のもとで「敵基地攻撃」としての航空戦略構想が生まれ、その後の館山海軍航空隊（館空）成立や「赤山地下壕」の建設につながったと推察しています。今回の講座では、「陸の空母」と呼ばれた「館空」に関わっている「山本五十六」などについても取り上げながら試論の一端を紹介したいと思います。

愛沢 伸雄

◆ 知恵袋講座

⇒ 準備の都合上なるべく予約をお願いします。

～NPO メンバーが語り手となって、楽しく学び、語り合う茶話会です。ふるってご参加ください。

13:30～15:30 菜の花ホール 2F / 参加費（資料、茶菓子代）：会員 200 円、非会員 500 円

◇ 第74回 1月17日（火）

「もうひとつの房州弁～三芳のこぼれ」

語り手：樋口正規さん

南房総市三芳地区で生まれ育った樋口さんは、天羽・安房・館山総合高校の国語教師を歴任。2003年に「三芳・方言の会」を発足。南房総市市民提案型チャレンジ事業に2年連続採択され、『三芳のこぼれ』を12月に刊行しました。

◇ 第75回 2月21日（火）

「館山の海を愛した画家たち」

語り手：池田恵美子さん

風光明媚な房総は、古くから多くの文人墨客に愛され、素晴らしい作品が誕生しています。青木繁のみならず、寺崎武男、倉田白羊、中村彝、多々羅義雄…など、枚挙にいとまがありません。そのネットワークや写生地の推定などを紹介します。

<寺崎武男の調査研究の経過報告>

明治期にイタリア留学した寺崎武男は、日本人初のベニス・ビエンナーレ国際展受賞、ローマでの日本美術展開催、帰国後には日本創作版画協会の設立、法隆寺や東大病院などに壁画制作など、国内外の文化交流に大きな業績を果たしました。一方、館山に居住して房総神話などを制作するかたわら、安房高校の講師として美術教育にも貢献しました。NP0 フォーラムでは、遺族から寄託された作品や手帳・ハガキなどの資料を中心にさまざまな調査研究を進めており、今春に生誕 140 年展を開催予定しています。経緯は NP0 だより No. 88 をご参照ください。

<Report 安房高校・石井浩己校長の Blog より>

生き残っていた「自由の女神」像 —72 年目の真実—

戦中戦後の混乱期に 6 年にわたり本校校長を務められた兵藤益男校長先生のお孫さんが、NP0 法人安房文化遺産フォーラムの御案内で来校されました。

兵藤校長は茨城県出身で、東京帝国大学医学部に進まれましたが健康を害し中途退学され、その回復を待つて文学部に再入学、卒業後は千葉県で教職の道につかれました。

戦争が厳しさを増す昭和 19 (1944) 年に第 7 代校長として着任され、軍国主義から平和教育、また旧制中学校から新制高校へいう大転換期に学校の舵取りを務められた方です。

田居守夫の筆名にて歌壇でも活躍された文人校長で、その小首をかしげて思案する風貌に、多くの生徒・職員から親しみを込めて「がんくび」校長とあだ名された名物校長でありました。

その文人校長が見い出した人材に、寺崎武男画伯がおられます。戦時中館山に暮らしていた画伯は、明治 16 (1883) 年のお生まれで、このときすでに老大家 (…後の生徒からの愛称は「おじいちゃん」) でしたが、校長の熱意に応え、昭和 24 年、本校の美術講師となられました。

寺崎画伯のもとからは、のちに美術界で活躍される人材が多く誕生しましたが、その一人である井上忠蔵先生は、私が中学校時代の先生です。

さて、今回この記事を書かせていただいたのは、本校の『創立百年史』に誤りが発見されたからなのです。この 301 頁に「自由の女神と寺崎先生」と題した文章 (以下) があります。



第 7 代校長 兵藤益男先生

…昭和 25 (1950) 年 2 月に撮影した高校第 2 回生の卒業写真に、右手を高く掲げたヴィーナス像—自由の女神の像が写っている。この像を造ったのは寺崎武男画伯である。学校創立以来文武両道をモットーに質実剛健の気風を養ってきた男子校の玄関前に女性の裸像を建てたのは、まさに画期的な出来事であった。しかし外部からの非難の声が先生の耳に入り、憤って自らの手で破壊してしまった。…

最後の一文は、長く事実として信じられてきました。それが今回、安房文化遺産フォーラムの調査により、誤解であったことが判明しました。

女神像には、確かに批判を含めさまざまな意見があったようで、兵藤校長が本校を去ったのちには、その取り壊しも云われていたとのことでした。

寺崎画伯は七浦中学校の課外授業の指導にもあたられており、親密な仲であった栗原幸太郎校長からの厚意を受け、女神像は安房高から七浦中に動座したのです。

愛弟子の井上忠蔵先生の著書『たまべえ日記 画家の街道より—寺崎武男伝』には、次のように記されています。

自由の女神像は、七浦中学校 (小学校と共同の校庭) の校庭に残されていた、二宮金次郎の銅像跡の台の上に鎮座して、子供達の成長を見守り続けることになったのである。

しかし、一度悲劇の運命にさらされたものには二度目の運命が待っているのか、校庭の側溝を新設する際、心無い業者による大型の『ゆんぼ』の一振り、自由の女神像は形が分からないほど無残に砕け散ってしまったのである。

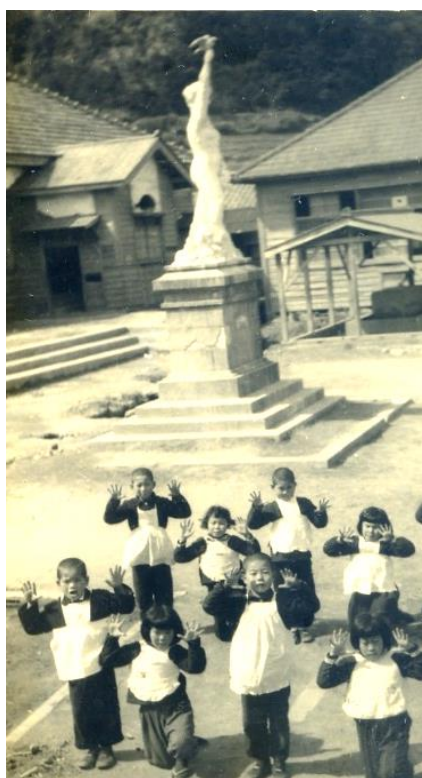
安房文化遺産フォーラムの鈴木政和副代表は、七浦小学校時代に自由の女神像があったけれど、いつのまにか無くなったと証言しています。たしかに集合写真 (次頁) にも写っています。こうして、72 年目の真実が明らかになりました。

*聞き取り調査① 渡辺公子さん ～兵藤益男校長の孫娘

母・鳶嶺は兵藤の長女で、昭和 19 (1944) ～23 (1948) 年に安房高等女学校の教師でした。私は昭和 24 (1949) 年に館山市北条で生まれましたが、祖父の退職に伴って、千葉市で育ちました。母と入れ替わりに、叔母の雅も新製の安房女子高校（いずれも安房南高校の前身）で教鞭をとりました。

寺崎先生の絵は、祖父から母がもらい受けました。何年か前に『遣欧少年使節団』を紹介した NHK の『日曜美術館』を見て、寺崎先生がすごい画家だと知りました。

このたび母が亡くなり、遺品整理のなかで寺崎武男を検索して安房文化遺産フォーラムのことを知り、連絡をとりました。先祖について調べて顕彰してくださり、ありがとうございます。



七浦中学校に移転した自由の女神像

*聞き取り調査② 栗原俊さん ～七浦中学校・栗原幸太郎校長の長女

父は地歴の教員でしたが、図工や絵もやっていた、寺崎先生とは親しく、よく家に遊びに来ていました。私は「寺崎のおじさん」と呼んでいて、そんなに偉い人とは思いませんでした。結婚のお祝いに絵をもらいました。襖絵もありましたが、家の建て替えのときになくなってしまいました。

昭和 22 (1947) 年に七浦中学校の初代校長となりました。安房高校の兵藤校長に寺崎先生を美術講師として推薦しましたが、最初は「そんな世界的な先生は使いきれない」と断っていました。

自由の女神像は覚えています。せっかく安房高に作ったのに、次の校長が外したと怒っていました。それで、父が七浦中学校に持っていきました。

寺崎先生は美術教育に不満があり、教育界に言いたいことがあったようですが、金釘文字だったので、私が頼まれて寺崎家へ毎週行き、口述筆記をお手伝いしました。終わると西洋料理をごちそうになりました。



*大阪芸術大学の石井元章教授がご来訪

寺崎武男が館山に暮らしたきっかけは、イタリア留学の先輩であり師と仰いだ彫刻家の長沼守敬が先に移住していたため。西洋美術史学者の石井元章先生は日本とイタリアの文化交流を専門とし、なかでも長沼に光をあてた研究者。2010 年の長沼宅調査以来のご縁で、早速来房してくださいました。寺崎の手帳や葉書などの資料に目を通し、調査研究に関するご助言をいただきました。



28 年目を迎えた高校生と市民協働のウガンダ支援交流は、コーヒー月間のチャリティ基金等 1,000 ドルを送金しました。カウンターパートの C.U.F.I. (ウガンダ意識向上協会) のスチュアート・センパラ代表より感謝のメッセージが届きました。



We were so blessed, we went to Mede village to celebrate an early Christmas festival with the children and community members. We gave out gifts and shared food with them after which we traveled back to Kampala. This is to acknowledge receipt of the funds sent to me as support fund towards CUFI projects. From the deepest depths of my being, thank you for your thoughtful financial support, I respect and admire your decision to donate so selflessly.

Let me also wish you a Merry Christmas and a Happy New Year. Praise the lord and God bless. Stuart Sempala

私たちは、ウガンダ北部のメデ村に行き、子供たちや村人たちと一緒にひと足早いクリスマス祝いをしました。プレゼントを配り、ともに食事をし、カンパラに戻りました。

あなたが CUFI プロジェクトへ送ってくださった支援資金の受領を確認いたしました。心の奥深くから、あなたたちの温かい経済的支援に感謝します。

皆さんにメリークリスマスと新年のご挨拶を送ります。主を賛美し、神のご加護を。

<写真：左上> クリスマスプレゼントとして、新しい毛布と食べ物を受け取るおばあさん。彼女はとても幸せでした。



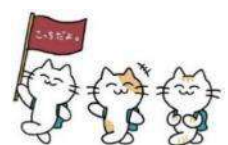
<写真：左> バン（車両）は私たちに素晴らしいサービスを提供しており、良好な状態に保たれています。

<写真：中> 神の愛情深い世話によってオリバーは健康を維持し、彼女は日ごとに美しい少女になりつつあります。

<写真：右> 食べ物を分け合うことは、命を分け合うことです。

◆ 当面のツアーガイドスケジュール

… サポートスタッフも募集中! …



- 1 月 8 日（日） 9:30～12:00 赤山地下壕ガイドサービス
- 2 月 5 日（日） 9:30～12:00 赤山地下壕ガイドサービス
- 2 月 7 日（火） 10:00～12:00 千葉県生涯大学校 2 年生：【講義】地域の歴史文化を知る
- 2 月 16 日（木） 13:00～14:00 のあたびツアー 35 名：赤山
- 2 月 18 日（土） 13:00～14:00 のあたびツアー 35 名：赤山
- 3 月 5 日（日） 9:30～12:00 赤山地下壕ガイドサービス
- 3 月 9 日（木） 15:10～15:50 クラブツーリズム 30 名：赤山
- 3 月 13 日（月） 15:10～15:50 クラブツーリズム 30 名：赤山

かにた エマオ・バザー

ボランティア募集！

2 月 24・25 日（金土） 8:30～14:00
駐車場係・レジ係など（NPO 事務局まで）